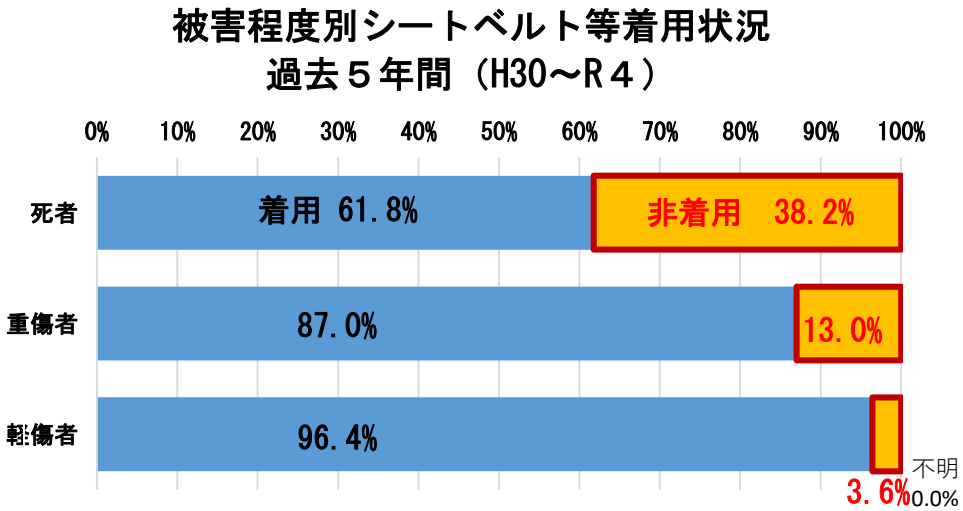
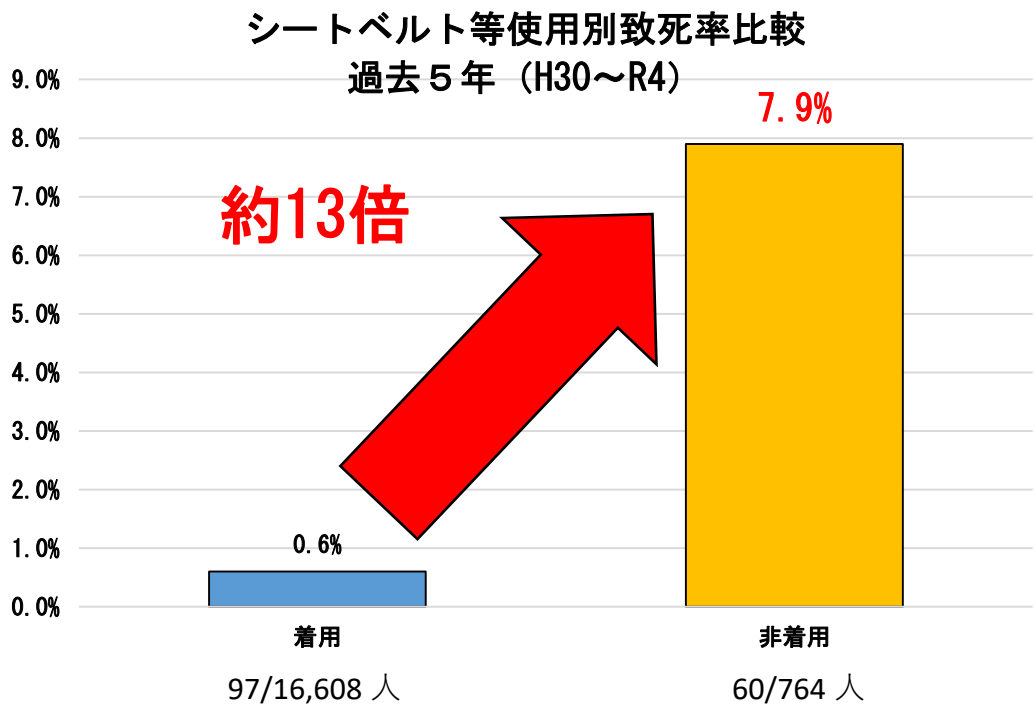
シートベルト非着用者の致死率は着用者の約13倍
（チャイルドシート含む）

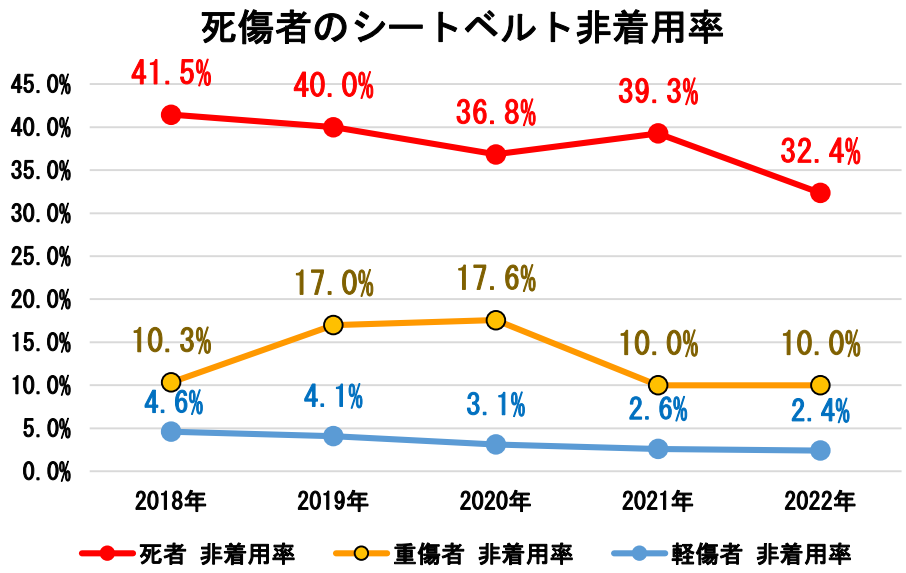
2018年以降５年間の自動車乗車中の死者のうち、シートベルト等（チャイルドシート含む）非着用者は４割近くを占め、重傷・軽傷者と比較すると非着用率が高い状況です。

また、シートベルト等非着用者の致死率は7.9%で、着用者の約13倍！

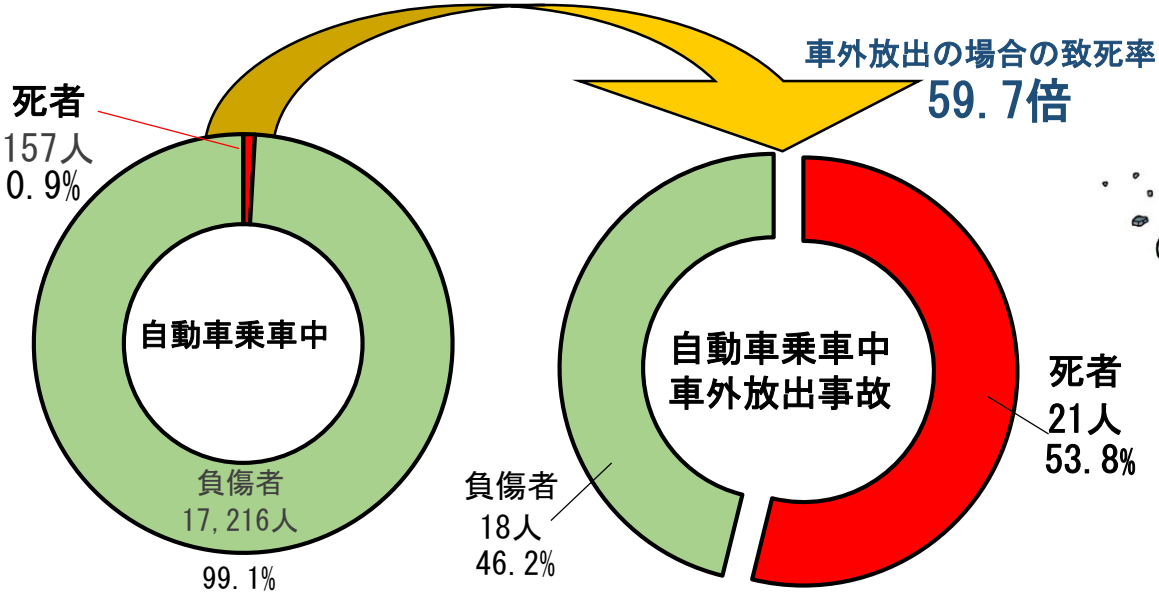


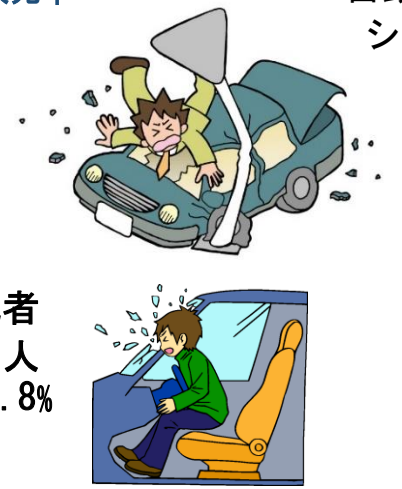


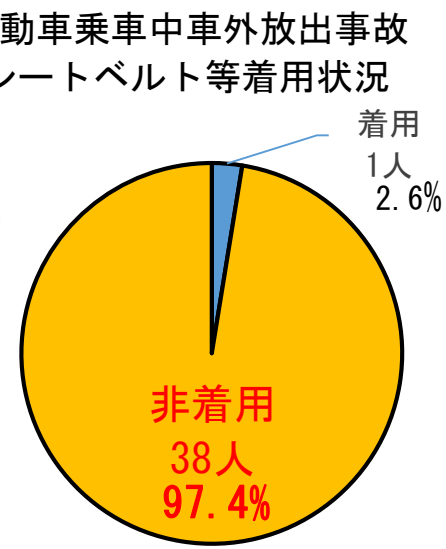
※着用不明１人を除く



自動車乗車中の人身事故　５年間（H30～R４）







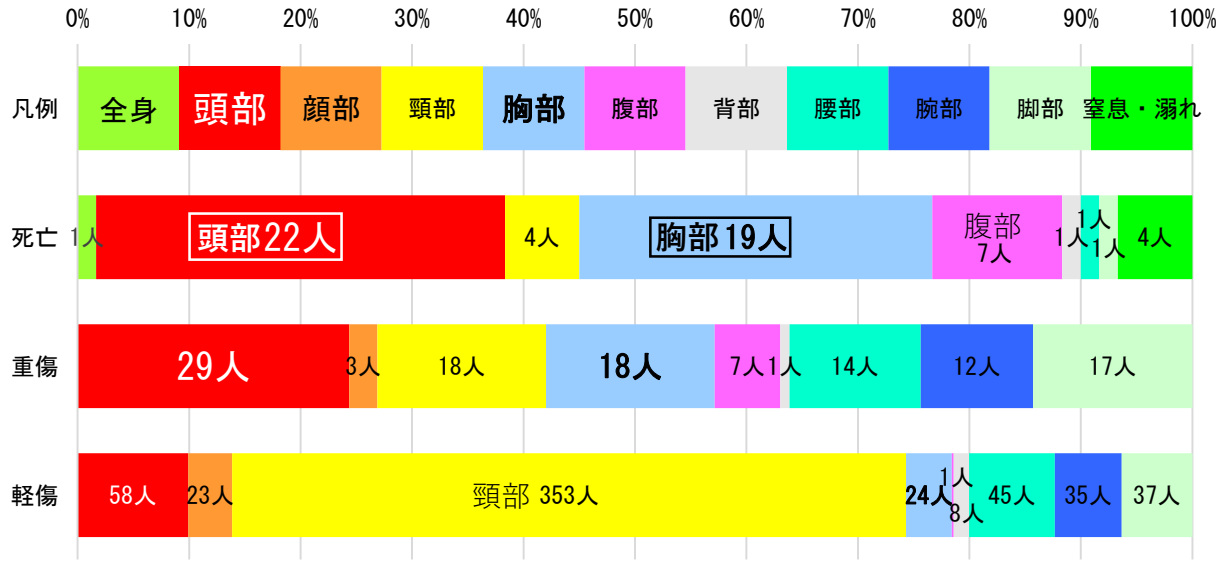
注：致死率＝死者数÷死傷者数×100

～車外放出事故の危険性と防止策～

シートベルト等非着用は、頭部や胸部を損傷して死亡や重傷を負う割合が高い状況です。

車外放出された方の内、97.4%がシートベルト等非着用であり、さらに自動車乗車中の人身事故全体の致死率が0.9%であるのに対し、車外放出をともなう人身事故の場合の致死率は53.8%と約60倍高い状況であり、危険な車外放出を防ぐ為には、シートベルト等の着用の重要性が伺えます。

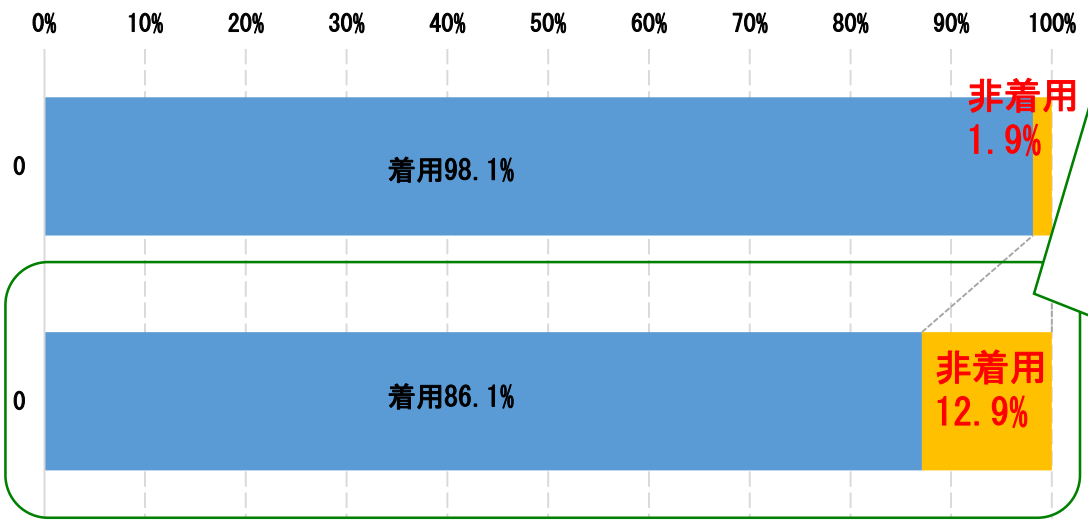
シートベルト等非着用の死傷者における主な損傷部位　５年間(H30～R4)



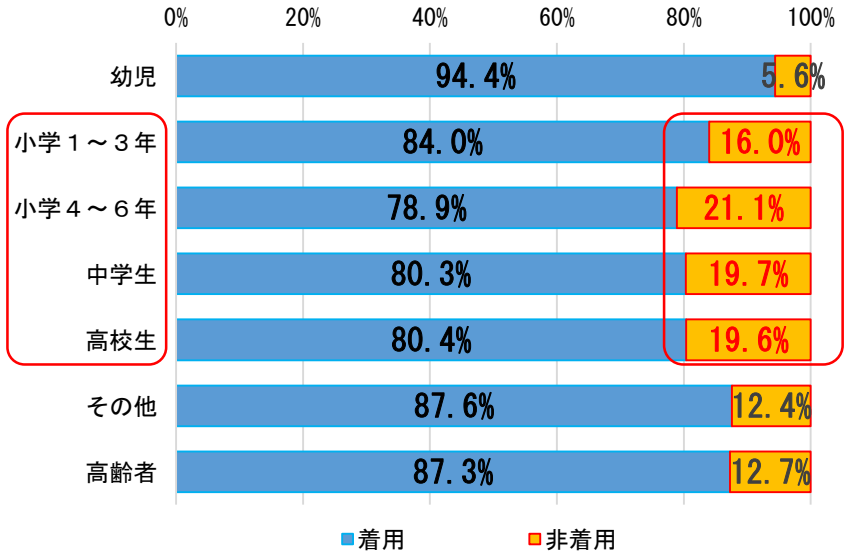
死傷した同乗者の約13%はシートベルト等非着用

死傷者の乗車位置別シートベルト着用状況 ≪５年間（H30～R４）≫

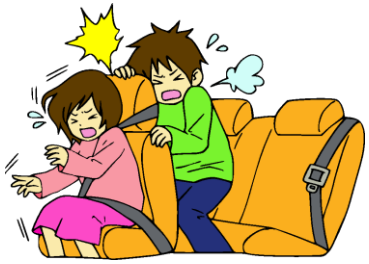
※着用不明１人を除く（以下同じ）



自動車同乗者の死傷者のシートベルト等着用状況

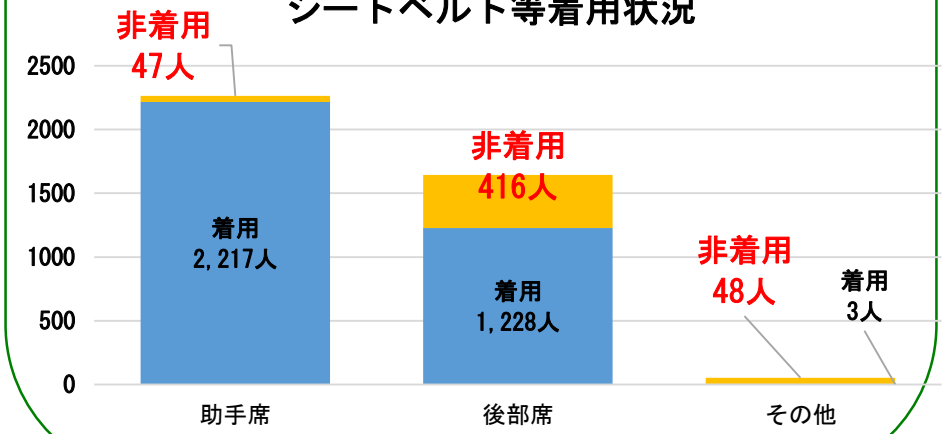


自動車乗車中の死傷者のうち同乗者は運転者に比べてシートベルト等非着用率が高く、特に後部席の非着用者が目立ちます。



中でも、高校生以下の非着用者が目立ち、特に小学生の高学年は非着用者が２割超と高い状況です。

自動車同乗中死傷者の乗車位置別シートベルト等着用状況

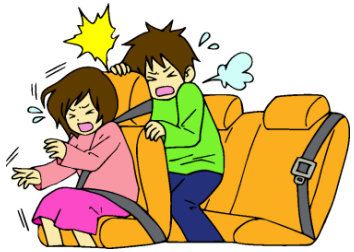


注：その他はバスの同乗者等をいう

後部座席でシートベルトをしないと
3つの大きな危険が

１　自分自身に大きな損傷を負う危険

事故の衝撃は想像以上に大きく、後席に座っていても、前席のシート、天井やドア等にたたきつけられ、頭部や胸部に大きな損傷を負う危険性があります。



２　車外放出の危険

着用時に比べ、車外に放出される危険性が高くなるとともに、車外放出により道路にたたきつけられる等し、重大な損傷を負う危険性があります。

３　前席乗車者への危険

事故の衝撃で、後席に座っている人が前方に飛び出すことにより、前席の運転者や同乗者がシートとエアバックやハンドルに挟まれて大きな損傷を負う危険性もあります。